

(1) 単元名： 詩を読もう

(2) 本時の目標： 詩を読んで情景や気持ちを想像したり、表現の工夫に気づいたりすることができる。

### 国頭村へき地教育研修会公開授業

平成26年度国頭村のへき地校(5校)に赴任された先生方の研修会である。今年、安波小学校のA先生が授業公開に応じてくれた。ありがたい。新しく赴任された先生方と言っても、時間的に都合のつけられた多くのへき地校の先生方が参加してくれました。授業者は本年度1・2年生の担任であるが、授業は、4・5年生の2人の国語の授業を設定した。これまで国頭村のへき地校における授業実践や、へき地教育への思いをRシートに多く綴らせてもらった。安波小のA教諭も、前年度よりへき地教育における「学び合う」授業の研究に理解を示し、本日の授業公開となった。実に謙虚で慎ましい授業である。



(児童の名前は仮名)

【デザインシート授業者より抜粋】 どんな教師像が浮かびますか？

昨年度は、先輩方の授業を形からとにかくまねてやってみました。実践を重ねる中でようやく少しずつ、「きく・つなぐ・もどす」ということの意味や、「学び合う」「教え合う」「話し合う」の違いがなんとなく感じられるようになってきたところです。…授業をデザインするにあたって、文学は解釈するものでなく「味わい、親しむ」ものだということを念頭において考えました。…対話を通して互いの気づきに助けられながらそれぞれのイメージを膨らませたり、読みを深めていったりすることができるような授業展開を目指したいと思います。・・・授業への誠意と教師の謙虚な姿がイメージできますね。



【授業開始】 読み 文学を味わい親しむためには「読み」は絶対である。



文学教材をどう扱う。文学作品もアートの仲間である。子ども達はそれぞれ持った感性で作品を味わう。それぞれがどのように作品を味わっているかを共有することが目的である。作品の価値は味わう子どもによっていろいろ違いが出てくる。違うからこそ共有する価値があり、その違いからお互いの「学び」が生まれ、深まっていくものと言ってよい。

「感動」は、作品と自分との空間にある。その空間に漂う互いの感性を「学ぶ」ことを前提としたい。そのためにも「読む」という行為は大切にされる。

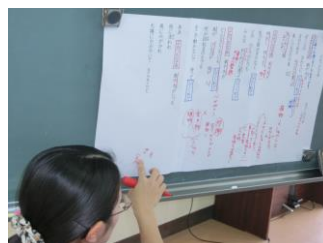
本日の授業者は授業開始の2回の全文音読は始め、部分読みを含め授業中に計14回の読みを入れた。

【きき合う】 「なぜを聴く」・「分からないを訊く」・・・感性を共有する。

授業者は、子ども達の思いや考え、疑問を「聴く」「つなぐ」「もどす」に集中する。教師の問いが子どもの感性を引出し、互いの学びを深め多様な考えの共有を図る。

「似てるけどちょっと違う」子どもからよく聞こえる声がある。同じ結論の「ちょっとちがう」が学び合いの起点にもなりやすい。ほんとは「同じではなく、ぼくはぼくの考えで違うんだ。」同じにされたくない子どもの心がある。下記の子どもたちの発言どう思います

- 「よかたなあ」が4回も繰り返されている。・・・強く言いたかったんじゃない。(しょうた)
- 「草や木」「いてくれて」も繰り返されている・・・何でだろう？むう～？(よしと)
- 動かないで待っていてくれて・・・誰が待っているの？・・・まどさん、草や木？  
いてくれて・・・感謝の気持ちがある。(しょうた)
- 雨に洗われ 風にみがかれ・・・まどさんは、自然をよく見ている。(よしと)
- 生きているのがうれしい・・・まどさん、人、草や木。(しょうた)



【授業者の問い】 授業者の「問い（発問）」は大事である。



本時の授業で教師の印象的な問いが2つあった、

- ① 3連 そこで動かないで待っているのはだれ？
- ② 優しいのは、まどさん、草花？

子ども達の考えや思いを引き出す「問い」を準備することは大切である。研修会参加の中から素敵な発言があった。

☆「問い」とは答えに導くものではなく、考えを引き出したり、深めたりするためのものです。

いいですね。実に的確な回答だと思いました。

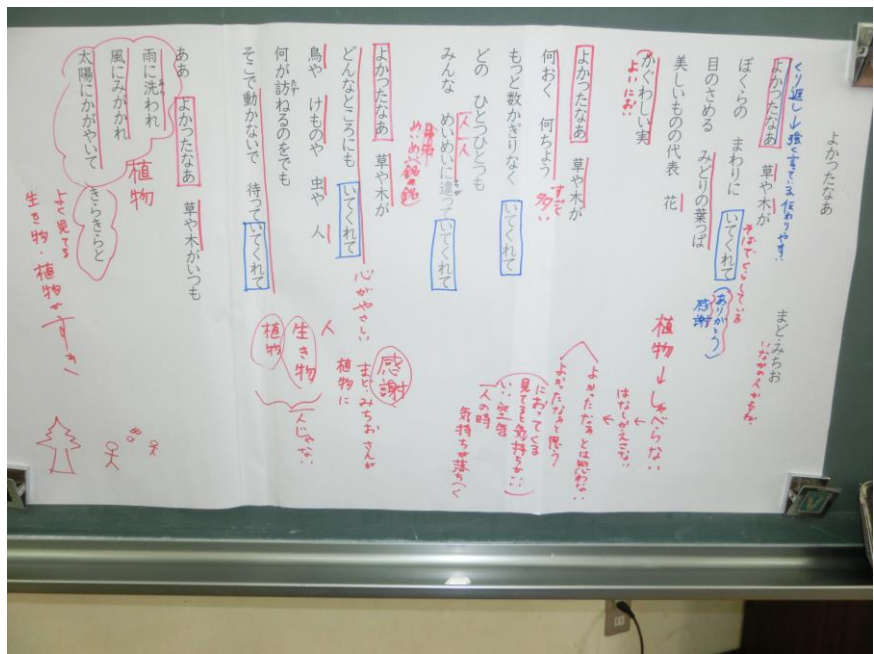
【書き込み】

右の写真が終了時のテキストです。子ども達と授業者のどんなやり取り（対話）が想像できますか？

- ・ありがとう
- ・よいにおい
- ・感謝
- ・心がやさしい
- ・一人じゃない
- ・よく見ている
- ・生き物、植物が好き

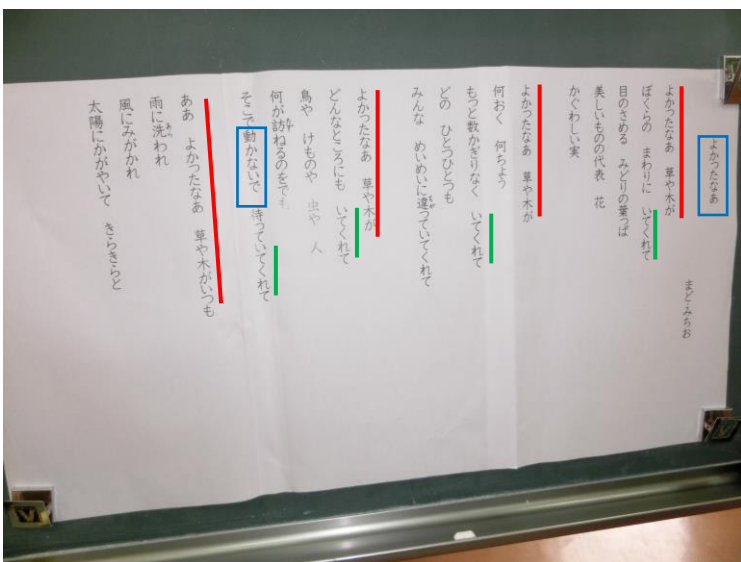
【授業者の思い】

授業者が「まど・みちお」さんの作品をテキストとして採用したことにも意図がある。この作品から、二人の「優しい」視点や心を発揮させてあげたかったのではないだろうか。



【「問い」の準備】 学びが滞ったり テキストに戻す時に授業者の「問い」が効果を発揮する。

▲答えに導くための問いではないことを確認しておきたい。



(問いの例) …あくまで私だったらです。

- ・4連の1行目のちがはなぜ？  
「ああ」は何だろう？
- ・4連目にだけ「いてくれて」がないのは？
- ・3連「動かないで」は「動けない」じゃないの？
- ・「よかったなあ」はだれがだれに言っているんだろう？  
…それはなぜ？

子どもの感性を導きたい。多様な考えの中に多様な学びがある。答え有りきの発問は、子ども達を答え探しの読みに走らせる心配がある。

A先生、国頭村のへき地校の先生方のためにありがとうございました。初めてへき地校における「学び」の国語の授業を観た先生方、不安や疑念、心の声が聞こえるようでした。A先生、「私も全くそうでした」と教えてあげてください。みんな「安心」しますよ。

国頭のへき地校の先生方のつながりは誇れるものだと確信しています。へき地教育に「真心の教育」がある。小橋川前教育長の言葉を重んじていきたいですね。お疲れさんでした。

